

# 東日本大震災復興の架け橋

## 「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」の開催に向けて

台風10号に伴う災害で犠牲になられた方々に対し、心からお悔やみ申し上げますとともに、被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。

いよいよ10月、本県において、「広げよう 感動。伝えよう 感謝。」のスローガンのもと、第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」の本大会と第16回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」が開催されます。

本県での国民体育大会本大会の開催は、昭和45年（1970年）の第25回大会以来46年ぶりとなります。冬季大会が今年1月から2月にかけて開催されましたが、これは平成17年（2005年）の岩手りんどろ国体（スキー）以来11年ぶりの開催となったものです。

本大会と冬季大会の全競技を開催するいわゆる「完全国体」は、岩手では初めての開催であり、また、東日本大震災津波の発生後、被災地域で初めて行われる国体・全国障害者スポーツ大会となります。

今度の国体・全国障害者スポーツ大会は、「東日本大震災復興の架け橋」という冠称

が付けられました。岩手県出身の偉人、新渡戸稲造の言葉、「われ太平洋のかけ橋とならん」にちなんだもので、全国と被災地域の繋がりを橋に例え、また、両大会が現在と復興の先の明るい未来を繋ぐ「架け橋」となる願いが込められているものです。

国体では、陸上競技、水泳など37の正式競技、特別競技1競技（高校野球）、公開競技4競技、デモンストラーションスポーツ29競技が行われます。水泳競技は、9月4日から9月11日まで本大会の会期前に行われました。

全国障害者スポーツ大会では、陸上競技や水泳など6つの個人競技、車椅子バスケットボールなど7つの団体競技が行われます。また、そのほかにも障がい者スポーツを普及・振興するために実施されるオープン競技は4競技が行われます。

さて、今年の冬季大会では、多くの県民の声援を受け、県勢は昨年から順位を上げ、県民に感動と希望を与えてくれました。また、大会期間中を通じて、多くの県民の参加や御協力のもと、選手への応援や、豚汁やひつつみのおふるまいなど、岩手らしい

心のこもったおもてなしがあり、大会は大きく盛り上がりました。

9月に行われた水泳競技においては、多くのリオデジャネイロオリンピックに出場した選手の参加によって、オリンピックの熱気がそのまま感じられる競技会となり、全国から多くの注目を集めました。

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会は、大震災からの復興に向けて全力で取り組んでいる中、「復興のシンボル」として、県民の皆様、競技関係者、企業・団体、市町村、県の力を結集して、まさに「オール岩手」で、「復興の大きな力」となる国体・大会を目指して準備を進めてきました。

両大会を通じて、復興に向かって力強く前進する本県の姿を見ていただくとともに、多くの御支援をいただいた全国の皆様へ感謝の気持ちを伝えていきたいと思っています。

「岩手で開催して良かった」「岩手にまた来たい」と思っていただけのように、全国から訪れる皆さんを、岩手ならではのおもてなしで県民を挙げて温かくお迎えしたいと思います。



岩手県国体・障がい者スポーツ大会局長  
**岩間 隆**